

令和8年1月22日

資料 1

# 議題 1 敬老パス市民アンケートの 結果について

健康福祉局



## 1 敬老パス市民アンケートの概要

区 分	内 容	
目 的	高齢者の社会参加を支援し、健康づくりを支えるための敬老パス制度について、現行の敬老パスの交付及び利用状況を調査するとともに、負担金引き下げ等の新たな検討課題にかかる市民アンケートを実施するもの	
対 象 者	市内在住の18～64歳の方	市内在住の65歳以上の方
対 象 者 数	3,000人（無作為抽出）	3,000人（無作為抽出）
回収数・回収率	1,183件（39.4%）	1,679件（56.0%）
調 査 方 法	郵送調査（回答は郵送及びウェブにより受付）	
調 査 期 間	令和7年7月31日～8月22日	

## 2 主なアンケート項目と回答

### （1）負担金の引き下げ案に対する理解

【引き下げ案】	<現 行>	<引き下げ案>
世帯非課税	年額1,000円	→ 現行どおり
本人非課税・世帯課税	年額3,000円	→ 2,000円
本人課税	年額5,000円	→ 3,000円

### ア 世代別状況

区 分	18～64歳	65歳以上
理解できる・やや理解できる	66.4%	74.1%
理解できる	45.4%	60.8%
やや理解できる	21.0%	13.3%
理解できない・やや理解できない	19.3%	5.6%
やや理解できない	6.5%	2.0%
理解できない	12.8%	3.6%
どちらともいえない	11.2%	11.7%
分からない・未回答	3.1%	8.6%

イ 負担金の引き下げ案に対する年代別理解（18～64歳）

区 分	回答数 (回答率)	理解できる・ やや理解できる	理解できない・ やや理解できない
18～19歳	25 (30.5%)	60.0%	24.0%
20歳代	118 (19.1%)	60.2%	21.2%
30歳代	223 (37.2%)	55.2%	31.8%
40歳代	290 (43.8%)	61.1%	21.8%
50歳代	332 (44.6%)	73.5%	13.2%
60～64歳	190 (64.2%)	80.5%	9.5%

ウ 負担金の引き下げ案に対する年代別理解（65歳以上）

区 分	回答数 (回答率)	理解できる・ やや理解できる	理解できない・ やや理解できない
65～69歳	363 (60.6%)	80.2%	3.3%
70～74歳	341 (53.0%)	72.4%	6.8%
75～79歳	429 (65.1%)	74.1%	7.2%
80～84歳	272 (51.4%)	72.1%	4.4%
85歳以上	217 (38.1%)	71.4%	6.0%

エ 負担金の引き下げ案に対する交付状況別理解（65歳以上）

区 分	理解できる・ やや理解できる	理解できない・ やや理解できない
交付者	77.3%	5.9%
未更新者	75.3%	4.3%
未所持者	68.8%	5.5%

オ 負担金引き下げ案に対する「理解できる・やや理解できる」を選択した理由  
(18～64歳：785件)

区 分	主な意見
波及効果が期待できるため 170件	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康や経済効果につながる</li> <li>高齢者の交通安全性が高まる</li> </ul>
利用増が期待できるため 167件	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出する機会が増える</li> <li>利用する人が増える</li> </ul>
物価高を踏まえた生活支援のため 108件	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで以上に生活費がかかっている</li> <li>年金受給者の負担減につながる</li> </ul>
引き下げ自体に賛成のため 93件	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担は低い方がよい</li> <li>年額1,000円と5,000円の差が大きい</li> </ul>
暫定上限額の範囲内のため 62件	<ul style="list-style-type: none"> <li>暫定上限額の範囲内なら理解できる</li> </ul>
将来利用する、または家族が利用しているため 36件	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が使うとき安い方がよい</li> <li>家族が利用しやすくなる</li> </ul>
その他 52件	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は無料だったから</li> <li>免許返納などの条件があってもよい</li> </ul>
未記入 97件	—

カ 負担金引き下げ案に対する「理解できない・やや理解できない」を選択した理由  
(18～64歳：228件)

区 分	主な意見
他施策に力を入れるべき 85件	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の負担金で十分安いため、教育や子育てに税金を使ってほしい</li> <li>暫定上限額の上限を減らして他に使うべき</li> </ul>
引き下げ自体に反対のため 69件	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の負担金で十分妥当である</li> <li>今でも自己負担が安すぎる</li> </ul>
利用増が期待できないため 43件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間1,000～2,000円の差で利用者が増えるとは思わない</li> </ul>
波及効果が期待できないため 8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果があるとは思わない</li> <li>効果がコストに見合っていない</li> </ul>
広報やキャンペーンによって利用者を増やすべき 8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行のまま利用者を増やす方法を考えるべき</li> </ul>
制度自体を廃止すべき 7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>現役世代に目を向けてほしい</li> <li>利用者が減っているのであれば制度をなくし若者に還元してほしい</li> </ul>
その他 2件	<ul style="list-style-type: none"> <li>暫定上限額の範囲内で下げられる根拠がわからない</li> </ul>
未記入 6件	—

キ 負担金引き下げ案に対する「理解できる・やや理解できる」を選択した理由  
(65歳以上：1,243件)

区 分	主な意見
引き下げ自体に賛成のため 426件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しでも安い方がよい</li> <li>・年額5,000円は高い気がする</li> </ul>
利用増が期待できるため 247件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出しやすくなる</li> <li>・今の負担金ほど使わないという友人がいる</li> </ul>
物価高を踏まえた生活支援のため 210件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金受給者にはありがたい</li> <li>・物価高の中で生活防衛になる</li> </ul>
波及効果が期待できるため 123件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者による社会貢献の増進につながる</li> <li>・健康寿命が長くなりトータルコストが減る</li> </ul>
暫定上限額の範囲内のため 72件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金の使い方として理解できる</li> <li>・暫定上限額の範囲内で可能ならありがたい</li> </ul>
将来利用する、または家族が利用しているため 26件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き下げになったら利用したい</li> </ul>
その他 77件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に利用して助かったため</li> <li>・敬老パス制度を充実してほしい</li> </ul>
未記入 62件	—

ク 負担金引き下げ案に対する「理解できない・やや理解できない」を選択した理由  
(65歳以上：94件)

区 分	主な意見
引き下げ自体に反対のため 47件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他都市と比較しても安すぎるくらい</li> <li>・収入のある人はそれなりに負担すべき</li> </ul>
他施策に力を入れるべき 16件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の精神はありがたいが、先のある若者や子育て支援にお金を使ってもらいたい</li> </ul>
利用増が期待できないため 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状でも十分優遇されており、負担金を引き下げても利用者が増えるとは思わない</li> </ul>
波及効果が期待できないため 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果があるとは思わない</li> </ul>
その他 24件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価が上がっているため</li> <li>・負担金を引き上げて回数を増やしてほしい</li> </ul>
未記入 1件	—

(2) 敬老パスの様々な効果に対する認識

区 分	18～64歳	65歳以上
外出機会の増加	74.7%	71.6%
外出による健康増進・歩行量の増加	64.6%	67.1%
健康増進による医療費や介護費用の節減	34.9%	42.5%
外出による買い物行動・消費の増加	56.6%	59.4%
まちの賑わいの増加	22.4%	24.4%
自動車利用減少による環境負荷の軽減	33.7%	45.0%
自動車利用減少による高齢者の交通安全性の向上	60.8%	52.4%
地下鉄・市バス等の利用増加による市営交通の 路線維持（経営安定化）	44.0%	53.5%
その他	1.2%	2.7%
効果はない	2.9%	1.2%
分からない・未回答	2.6%	8.1%

注：複数回答を認めているため、合計が100%とはならない

(3) 敬老パスの交付及び利用状況（65歳以上）

ア 敬老パス交付者の利用目的

区 分	割 合
買い物・外食	70.6%
通院	37.5%
家族や友人に会う	34.6%
趣味活動	30.0%
通勤	10.8%
通学・習い事	5.5%
ボランティア活動	4.6%
家族等の介護・子育て支援	2.8%
その他	5.3%
未回答	2.5%

注：複数回答を認めているため、合計が100%とはならない

イ 交付者・未更新者・未所持者別の週当たりの平均外出回数

交付者	未更新者	未所持者
片道5.8回 (片道3.9回)	片道5.9回	片道7.6回

注：表中のカッコ内は、敬老パスの平均利用回数の内数

ウ 敬老パス交付者の健康に関する所見

区 分	割 合
とても役立っている	61.0%
やや役立っている	26.5%
あまり役立っていない	3.3%
全く役立っていない	1.5%
分からない	5.5%
未回答	2.1%

注：端数処理により合計が100%とはならない

エ 敬老パス交付者の外出1回当たりの平均消費金額

4,813円/回
----------

オ 敬老パス交付者の敬老パス制度がなかった場合の行動変化

区 分	割 合
敬老パスがなかったら出かけない	9.9%
自分で乗車券を買って出かける	55.3%
自分で車・バイクを運転して出かける	12.7%
家族に車で送迎してもらって出かける	3.7%
タクシーを利用して出かける	2.3%
徒歩・自転車で行ける範囲の目的地を変える	11.3%
未回答	4.7%

注：端数処理により合計が100%とはならない

カ 負担金引き下げ案を踏まえた敬老パスの更新・所持の可能性

区 分	交付者	未更新者	未所持者
更新・所持する可能性がある	92.5%	59.1%	26.5%
どちらともいえない	2.0%	10.8%	9.6%
更新・所持する可能性がない	0.6%	16.1%	32.9%
その他	1.4%	0.0%	3.5%
分からない・未回答	3.5%	14.0%	27.4%

注：端数処理により合計が100%とはならない

(参考) 敬老パスの更新・所持の可能性を踏まえた交付者数の増加見込み

4万人
-----

キ 未更新者・未所持者が敬老パスを取得した場合に新たに利用する回数

区 分	未更新者	未所持者
週当たりの利用回数	片道1. 1回	片道2. 1回

ク 敬老パスの未更新・未所持理由

区 分	未更新者	未所持者
自分で車・バイクを運転するから	38. 7%	42. 0%
家族が車で送迎してくれるから	8. 6%	6. 7%
タクシーを利用しているから	5. 4%	3. 2%
敬老パス対象交通以外を利用しているから	0. 0%	0. 3%
あまり遠くに出かけないから	6. 5%	5. 2%
外出が困難だから	9. 7%	6. 4%
駅やバス停までが遠いから	1. 1%	1. 2%
駅やバス停が市外のため敬老パスが使いにくい	0. 0%	0. 0%
更新の手続きが面倒又は分からないから	0. 0%	2. 9%
敬老パスは所得に応じた負担金が必要だから	8. 6%	3. 2%
福祉特別乗車券等を利用しているから	—	8. 5%
その他	10. 8%	6. 7%
未回答	10. 8%	13. 7%

注：端数処理により合計が100%とはならない

ケ 敬老パス未更新者の電子マネー機能の利用状況

区 分	割 合
現在、使っている	19. 4%
過去、使ったことがある	31. 2%
今後、使う予定がある	0. 0%
使ったことがない	48. 4%
未回答	1. 1%

注：端数処理により合計が100%とはならない

コ 敬老パスの利用上限回数（730回）にかかる所見

区 分	割 合
多い・やや多い	19.4%
多い	11.6%
やや多い	7.8%
適切である	44.1%
少ない・やや少ない	9.9%
やや少ない	5.6%
少ない	4.3%
その他	3.2%
分からない・未回答	23.4%

(内訳) 敬老パスの利用上限回数（730回）にかかる所見（交付状況別）

区 分	交付者	未更新者	未所持者
多い・やや多い	21.3%	29.0%	12.2%
適切である	51.3%	37.6%	27.1%
少ない・やや少ない	10.9%	6.5%	9.3%
その他	2.7%	4.3%	5.0%
分からない・未回答	13.8%	22.6%	46.4%

サ 今後の外出頻度に係る意向

区 分	割 合
新型コロナウイルス感染症の流行前より外出頻度が増えている	11.4%
新型コロナウイルス感染症の流行前の外出頻度と同じ程度である	54.1%
新型コロナウイルス感染症の流行前より外出頻度が減っている	23.7%
その他	3.2%
未回答	7.6%

(内訳) 今後の外出頻度に係る意向（交付状況別）

区 分	交付者	未更新者	未所持者
新型コロナウイルス感染症の流行前より外出頻度が増えている	13.8%	4.3%	8.2%
新型コロナウイルス感染症の流行前の外出頻度と同じ程度である	58.0%	41.9%	51.0%
新型コロナウイルス感染症の流行前より外出頻度が減っている	22.7%	41.9%	25.7%

### 3 敬老パスの効果

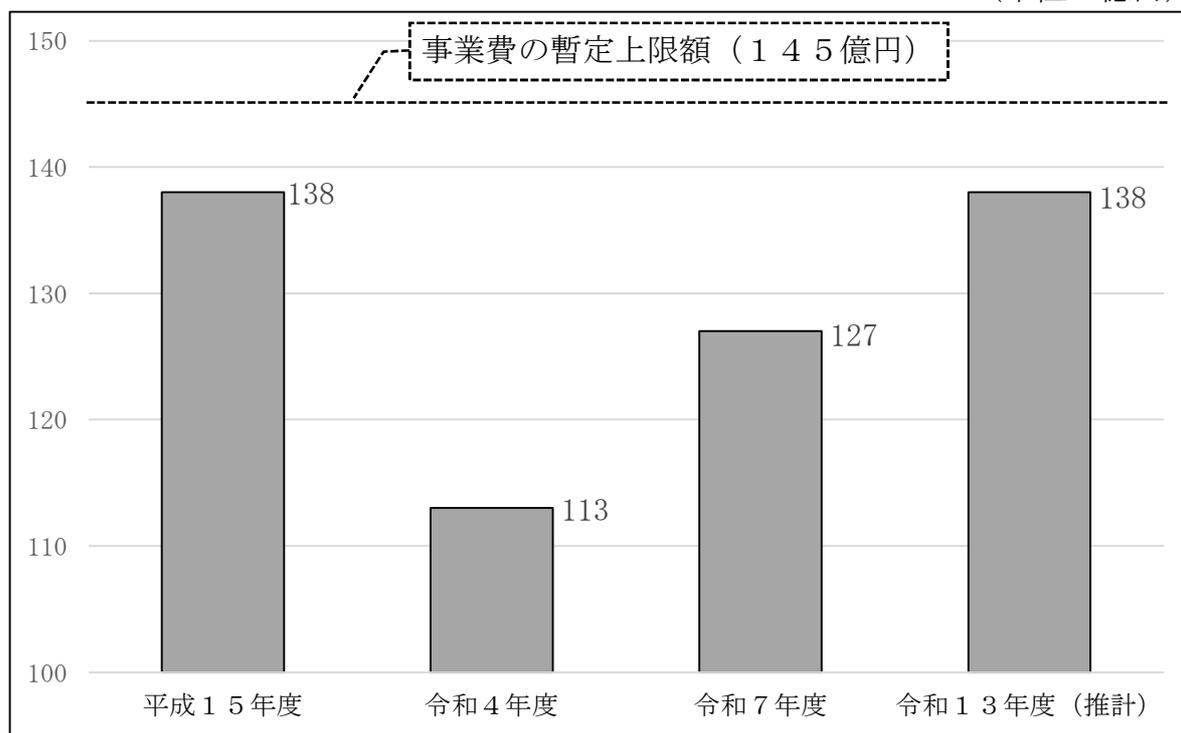
区 分		現行制度に おける効果 (対象31万人)	負担金引き下げ による追加効果 (対象4万人)
効果についての金額換算 (推計)		599億円	28億円
社会 参加 効果	・敬老パスがあることで増える 外出回数の割合	32%	—
	・敬老パスがあることで外出する 高齢者数	3万人	4千人
健康 効果	・敬老パス利用者が「自宅」から 「最寄りの駅やバス停」まで歩 くことによる歩数の増加	+1,500歩	—
	・歩行による医療費抑制効果 〔国のガイドラインである1日1 歩当たりの医療費抑制額0.065 円に基づき試算〕	▲10億円	▲4千万円
経済 効果	・直接効果 〔敬老パスによって外出する際の 1回当たりの平均消費額4,800 円に基づき試算〕	481億円	21億円
	・賃金引き上げ効果	55億円	2億円
	・税収効果	4億円	2千万円
環境 効果	・敬老パスによって車利用を 控える高齢者数	6万人	2万1千人
	敬老パスによって車運転を 控える高齢者数	4万人	1万5千人
	・二酸化炭素削減効果 (金額換算)	10,926トン (4億円)	1,375トン (6千万円)
	・送迎負担軽減効果 (金額換算)	227万時間 (45億円)	21万時間 (4億円)

+

注：アンケート結果に基づく株式会社日本能率協会総合研究所による推計

#### 4 敬老パス事業費（暫定上限額応当額）の推移

（単位：億円）



注：令和13年度の敬老パス事業費の推計は、アンケート結果に基づく負担金引き下げ影響分（5億円）を加味したもの